

室蘭言泉学園

自主性育み70年

障害児入所施設「室蘭言泉学園」（室蘭市母恋南町）が本年度、開設から70周年を迎えた。多くの聴覚障害児が巣立ち、現在はさまざまな障害のある子どもを受け入れている。個人の自主性を育み、地域に根付いてきた子どもたちの「家」。26日には節目を記念した講演会を市内で開く。

（田中雅久）

室蘭言泉学園の歩み

1928年 （昭和3年）	私立八雲聾啞学院が開設
36年	室蘭に移設
49年	室蘭言泉寮として認可を受ける
67年	室蘭言泉学園に改称
97年	短期入所事業を始める
2012年	園舎を新築し、ろうあ児施設から障害児入所施設に変更
17年	園舎の屋内遊技場が室蘭市の一次避難所に指定される
19年	開設70周年

26日に記念講演会

前身は、創設者の故・辻本繁氏が1928年（昭和3年）に渡島管内八雲町に設立した私立八雲聾啞学院で、36年に室蘭に移設した。49年6月に児童福祉法に基づいて室蘭言泉寮として認可を受け、67年に現在の名称に。2019年6月に開設70周年を迎えた。

開設から63年間は聴覚障害児を受け入れてきたが、12年の児童福祉法改正に伴って、知的や身体などの障害のある子どもを幅広く受け入れる施設に転換した。これまでに巣立った卒業生は約290人。愛着を持ち、子どもを連れて訪問する卒業生もいるという。

現在の入所者は29人。室

蘭をはじめ、稚内や芦別など道内各地から6〜18歳の子どもが入所し、近隣の学校に通う。12年に新築した3階建ての園舎は屋内遊技場などを備える。17日に同施設を訪ねると、食堂では入所者が昼食のシーフードピラフを味わい、「おなかすいた」「おいしいね」といった明るい声が響いていた。

共同生活を送る子どもたちはきょうだいのようだ。施設の佐々木弘美課長は「避難訓練では、年上の子が下の子の面倒を見てくれることもある」と成長を実感する。生活必需品の管理や買い物を通し、自主性を伸ばすことを心掛ける。

施設は地域に根ざし、母

恋地区の行事に参加することもある。佐々木課長は「地



域の皆さんにお世話になっている」と感謝し、「一般の家庭と大差がないように、子どもたちが安心して帰って来られるような施設であり続けたい」と話す。

講演会は26日午前10時から市民会館（輪西町）で開く。自身も車いす生活を送る東俊裕・熊本学園大教授が「共生社会の実現に向けて」と題して講演する。希望者は23日までに電話、ファクス、メール、郵送のいずれかで申し込む。問い合わせは施設を運営する社会福祉法人「室蘭言泉学園」☎0143・50・6720へ。

昼食時の室蘭言泉学園の食堂。子どもたちにとって学園は「家」そのものだ